

# ART KISS LETTER

熊本市現代美術館 アート・キッスレター

2018 初春  
vol.84



「アート・キッス」と「池袋大特撮美術監督」

## 美術館と新たな視覚―熊本城をめぐる

巻頭言

現在日本の多くの美術館では積極的に展示作品の撮影許可を広げています。これは国際的な傾向でもあります。その理由のひとつに、スマホのもつ性能向上と簡便さによって、暗くてもフラッシュをたく必要がなく、かなり質の良い写真撮影が可能となったこと。そしてSNS等のコミュニケーション機能によって、友人知人に同時に伝わることによって、今までは考えられなかった広報宣伝効果が生み出されていることです。

一方で、オランダの国立美術館では、正面にカメラにバツテンの入った大きな看板を立て、紙と鉛筆を提供して、撮影でなく素描（ドローイング）をすることを薦めている館もあります。素描により、名画へのアプローチがより積極的となり、多くの発見と深い理解が生まれる、という理由です。

今回、熊本市現代美術館が企画した「熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト展」は、精密に造形された大型ミニチュアの熊本城を、観客が撮影することによって観賞が完結するという目的をもったものです。現在修復中の熊本城は、熊本市民、県民の象徴であり、各々が身近で独自の物語を育んできました。それが震災によってダメージを受け、人々は悲嘆にくれましたが、今、城は創造的に復興中。その城を特撮技術によって限りなく正確に再現したものが美術館内に出現したのです。これには多くの熱心なインターン（ボランティア）の方々の協力がありました。威容を誇る城の背景には手描きによる躍動感あふれる雲が描かれ、また街並みには、開幕後も新たな建物や看板や人々が付け加えられ、日々変容している都市が見られました。

見る方向やレンズを向ける角度により、景色はよりリアルなものとなり、その発見に驚き、見ることの喜びが生じます。これは美術館における新たな創造的な鑑賞法とすることができましょう。ところでカメラの起源であるルネサンス以来のカメラ・オブスキュラや、19世紀初頭のカメラ・ルシダは、人間が風景を描く際の素描の手助けとなるものだったことが思い起こされます。

熊本市現代美術館館長 桜井武

Contemporary Art Museum, Kumamoto

NEXT EXHIBITION

2018.3.31[土] - 4.15[日]

第29回熊本市市民美術展 熊本アートパレード

CAMK  
www.camk.or.jp



# MUSEUM INFORMATION

2017 SEP - 2018 JAN

誉のくまもと展

2017.10.12

## 今田淳子 開館記念日 公開制作+ワークショップ

熊本市現代美術館開館15周年の記念日に、「誉のくまもと展」出品作家の今田淳子さんによる公開制作とワークショップをびぶるす広場で開催しました。ワークショップは肥後六花の花飾りを切り絵でつくる内容。肥後六花の切り絵のデザインは、今田さんのオリジナルです。子どもから大人まで多くの人が参加し、切



り絵を開いたときの出来上がりの美しさに歓声が上がっていました。

今田さんは、参加者の皆さんが作った切り絵を用いて、肥後六花のドレスを着た女神像を公開制作。300枚以上の切り絵を使って、素敵なドレスが完成しました。  
(H・T) 【参加人数300人】

2017.10.22

## CAMKレクチャーカレッジ

展覧会企画学芸員の富澤が、「誉のくまもと展」について講演しました。展覧会の特徴として、「開館15周年を記念する展覧会として、熊本市民がテーマや作品に親近感を感じるような内容」、「現代美術館ならではの活動として、コミッションワークを作家に委嘱、初公開の新作として発表すること」、「館蔵品の活用」を意識して準備を進めたこと、続いて、



テーマの選定として、熊本内外に強い存在感を持つ熊本城や石牟礼道子さん、県外に強い発信力を持つ生人形、県内では著名だが県外にほとんど知られていない(ので発信したい)肥後六花などを選定し、この4つのテーマを、コミッションワークとして5人の作家(うち2名は熊本出身)に制作委嘱したことを紹介しながら、講演を開始しました。

講演では、コミッションワークに取り組んだ、石内都さんや寺田克也さん、石川直樹さんの取材風景、今田淳子さんの展示空間、瀧下和之さんの制作エピソードなどを紹介しました。

また継続する生人形研究の成果として、当館収蔵の《相撲生人形》については、歌舞伎役者の見得の表情との一致や、役者たちと生人形の知られざる関係の近さを、出品作品を通じて紹介しました。さらに、市民と行う文化財保存の観点から、出品作品の《馬人形》(宇賀神社蔵)の保全修復のアドバイスをきっかけに、町内・校区が協力して作品を修復した作品の背景などを紹介しました。

最後に、震災直後から展覧会を準備したことで、「災害」にひとりの人間としてどう向き合うか、というテーマで、宮島達男さん、石内都さん、秀島由己男さんの作品から「ひとり

ひとりの生の証」という観点で作品を読み解きました。講演後、たくさんの方の書き込みのあるアンケートを多数いただきました。(H・T)

【参加人数30人】

2017.10.28

## 鍛山親方(元関脇寺尾)ご来館！ 相撲生人形ほか観覧

鍛山親方(元関脇寺尾)にご来館いただきました！主な目的は、ただいま開催中の「誉のくまもと展」に出品されている、安本亀八《相撲生人形》(当館蔵)と、瀧下和之さんが、故九重親方(元横綱千代の富士)を

オマージュして制作した《大相撲力士図―雲竜》の観覧です。当館としても、相撲界の方に、《相撲生人形》を見ていただくのは初めてのことであり、どのような感想がいただけるのか、楽しみにしていました。

会場に入り、親方がまず注目されたのが寺田克也さんの作品。「同世代の方なんです」と興味を持った様子でした。

続いて、《相撲生人形》を、全方向からぐるりと観覧。「筋肉がすごい表現ですね」「上手投げですね、でも、腰に完全に乗っているから、腰投げかもしれない。親方の判断次第ですね」とのこと。また、髪型を見て、「髷を結っていないですね。うちの力士たちも、風呂上りはこんな感じの髪型ですよ」と指摘。着衣でもあり、いわゆる公式試合ではない雰囲気演出かと、作品理解が深まる重要な発言でした。また、「目が血走っているのも、試合後にそうだったこともある」というようなコメントも。「土俵の上では、それまで汗をかいていても、すっと汗が引きました。自分のことですが」という、土俵という場の特別さを教えていただくような言葉もいただきました。

(H・T)





## 第5回 上通まちゼミ

## ゆつくりギャラリートツア

上通まちなかゼミナール（通称：上通まちゼミ）とは、上通商店街にあるお店の人が講師となつて、専門店ならではの知識や情報・コツなどを教えてくれるというイベントです。5回目となる今回、現代美術館も初めてまちゼミの実施店舗として参加し、「誉のくまもと展」を企画担当学芸員の解説とともにじっくりと鑑賞する「ゆつくりギャラリートツア」を開催しました。

普段、展覧会期中の日曜に行っているギャラリートツアは30〜40分ほどなので「もっと作品の解説を詳しく

く聞きたかった!」というお声をいただくこともあるのですが、このゆつくりギャラリートツアの開催時間は通常の2倍の1時間。「誉のくまもと展」は、国内はもとより世界で活躍するすばらしいアーティストの方々にお願いして制作していただいたコミッションワークを数多く展示していますが、今回はいつものギャラリートツアでは時間の都合上なかなかお話しすることができなかった作品制作の裏側や、作家さんとのエピソードがふんだんに盛り込まれた特別なツアアとなりました。参加者のみなさんは解説に深く傾きながら、ときにメモをとるなどしてとても熱心に聴いていらっしやいました。

【参加人数5人】



## 秀島由己男、『春の城』挿絵を語る

「誉のくまもと展」関連イベントとして、出品作家である画家・版画家の秀島由己男さんによるアーティストトーク『春の城』挿絵を語る」を開催しました。「春の城」シリーズは、石牟礼道子さんの新聞小説『春の城』の挿絵として制作された約310点の作品群です。ひとつひとつのクオリティにこだわったという作家の言葉の通り、新聞小説の挿絵としては他に例を見ないことです。

作品の表現については、心の中に長く温めていたイメージは作品として上質なものとなったなど、制作姿勢についてもお話しいただきました。作品には、殉教などの残酷なシーンもあるため、作家として、死だけを表現するのは可哀想なので、美しさを心がけ、幻想的な風景を背景に、といった人間味あふれる発言もありました。実物の作品を前に、作家の表現の創意をお聴きする、たいへん貴重な機会となりました。（H・T）

【参加人数20人】



## アートイベント

## 鈴木淳「似木絵」

## どうです?、ふたたびたび

「誉のくまもと展」関連イベントとして、現代美術家の鈴木淳さんによるアートイベント「似木絵」はどうです?、ふたたびたびを開催しました。当館では、2008年、2013年に続き、3回目の開催です。今回は、これまでと全く反応が異なり、開始前に行列が出来、急きょ整理番号制とさせていただき、24名の方に参加いただきました。

ひとりひとりとじっくりとお話をしながら、その人の雰囲気から得たイメージを木の絵にするアートイベントですが、「現代美術家と会話をし

てみよう、絵を描いてもらおう」ということに対して、これまでになく参加者の皆さんが興味を持ち、積極的に働きかける姿勢を感じました。作家としても「これまでと違う。新しい時代が来ているようです」と驚いた様子でした。

参加された

方も、「名前に木の字がありまして」「樹木関係の仕事で」「家族で参加したい」「友人に誘われた」など参加のきっかけを語りながら、作家との会話がはず



んでいました。

出来上がった瞬間、絵を受け取った参加者がとてもうれしそうなお顔になるのが、このアートイベントの醍醐味でもあります。鈴木さんの描いたどの作品も、大変凝った描写でした。（H・T）

【参加人数24人】

今回は、制作秘話として、『春の城』が、石牟礼さんと一緒に事前取材に行った時の夕方の海の景色をもとにしていること、天草に行ったことや船の質感を大切にしたことなど、たくさんのお話をいただきました。

また、登場人物の描写についても、リアリティの追求として、友人や知人をモデルとしたこと。



2017.11.18

## 「天守再現プロジェクト展」のプレイベント「くまもと21の会共催」 特撮美術監督・三池敏夫講演会



「天守再現プロジェクト展」のプレイベントとして、今回の企画で特撮美術監督を務めている熊本出身の特撮美術監督・三池敏夫さんの講演会を開催しました。写真や映像を紹介しながら、特撮の歴史や技術を解説していただきました。また開催が一ヶ月後に迫った「天守再現プロジェクト展」のための熊本城ミニチュア製作についても、製作現場の写真を見ながら中間報告をしていただきました。特撮の現場への理解が深まるとともに、展覧会への期待も大きく高まるイベントとなりました。(K・O)

【参加人数1000人】

2017.11.19

## ミニチュアセット製作・撮影ワークショップ

「天守再現プロジェクト展」のプレイベントとして、ミニチュアセット製作・撮影ワークショップを開催しました。前日の講演会に引き続き、三池敏夫さんに講師を務めていただきました。

会場には、実際の撮影現場で使用されているミニチュアビルの他、土



土台のステージに道を描いて建物を配置するグループなど様々です。

ミニチュアセットの中心となる道は、狭いセットの中で奥行きを表現するため、手前となる部分は広く、奥になるにつれて急激に細くしながらカーブさせていきます。各グループの作業が完了したら、建物の配置を決め、ガードレールや電柱、樹木、車などを配置してセットは完成。完成後は製作したミニチュアセットをビデオカメラで撮影し、スクリーンに投影。スクリーンで見るとより本物の町の風景らしく見え、会場からは歓声があがりました。その後、夕日演出の仕方や、ビルに夕日を反射させてみるなど、現場ながらの技術を実演。ワークショップの最後には、参加者の皆さんにも各々撮影を楽しんでいただきました。(A・T)

【参加人数20人】

2017.12.16

## 開幕&記念トーク

「熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト展」が開幕しました。熊本出身の特撮美術監督・三池敏夫さんの指揮のもと、ミニチュア特撮の技



で熊本城を再現し、それと合わせて城下の街並みをイメージしたセットを製作しました。初日にはオープニングを記念して今回の製作過程を振り返るトークイベントを開



催。三池さんとミニチュア製作を担当したマーブリングファインアーツ代表の岩崎憲彦さんに登壇していただきました。

前半はホームギャラリで、今回の企画の経緯からミニチュア製作の過程、その苦労やこだわりどころなどをお話いただき、製作方針を巡っての関係者のやりとりも一部ご紹介しました。三池さんからは、限られた予算と空間の中で効率よくセットを見応えあるものにするための、特撮美術の思想もご説明いただきました。

後半は会場に移り、実際のミニチュアを前にして強遠近法といった特撮の技や、撮影のコツなどをご紹介。スマホのカメラを通して映し出された画面の迫力に、来場者の皆さんも思わず「おお」と声を上げていました。(G・S)

【参加人数1000人】

2018.1.13

## プレミアムナイトツアー

前半は展覧会に関するレクチャー、後半は貸切状態で会場案内というプレミアムナイトツアーを開催しました。まずホームギャラリで「やりすぎる人々」をテーマに今回の展覧会に尋常でない情熱を注いでくださった方々を紹介。当初の想定をはるかに超えるレベルでミニチュアを仕上げていただいた三池さん・マーブリングファインアーツの皆さんから始まり、メイキング映像制作チームのエピソードでは、当初10分程度の長さとなる予定だった映像が、完成したときには特典映像も含めてなんと51分になっていたという話も…。



会場内では芸員によるミニチュアや特撮の考え方についての説明のほか、写真撮影のコツの案内も。参加者の皆さんは、自身のスマホやカメラで色々な表情の熊本城と街並みを写真に収めておられました。学芸員の説明に加えて、インターンとして制作に関わられた方からの説明もあり、盛り沢山な内容となりました。最後にはプレミアムなおみやげとして、三池さんの描いたセットデザインスケッチのレプリカをお持ち帰りいただきました。(A・T)

【参加人数35人】



2017.11.11

GⅢ vol. 118

「風を待たずに——

## 村上慧、牛嶋均、坂口恭平 の実践」サテライト展示



出品作家の牛嶋均さんは、「戦車からリヤカーへ」というように、作品をトランスフォームする「人智の研究」シリーズも制作しています

が、本展の出品作品は、かつて牛嶋さんの工場で製造したと考えられる廃棄された遊具3点を連結したものの。会期終盤の11月11日、3点のうち2点を解体して美術館の外へ持ち出



し、上通商店街を転がして、商店街の一角に2日間限定のサテライト会場を出現させました。

この場所は、2017年8月に坂口恭平さんが「モバイル計画in上通」を実施した場所でもあります。店が立ち並ぶアーケード街の中に、突如「ポカン」と出現した、牛嶋さんと坂口さんの作品が同居する不思議な空き地に、行き交う多くの人がぶらりと立ち寄りました。美術館と公園に共通するパブリックスペースが商店街の中に一時的に生まれました。(M・I)

2017.11.17

GⅢ vol. 119

「くまもとアートポリス

## みんなの家の展覧会」開幕

熊本地震からの復旧・復興につなげるくまもとアートポリスの取り組みを題材に、2017年8月から2018年1月まで、県内各所でさまざまなイベントが行われました。

その一つとして、熊本市現代美術館では「くまもとアートポリス みんなの家の展覧会」が開催されました。本展は、8歳から73歳までの仮設住宅団地の入居者と、震災を経験した県内の高校生が自らカメラを持って記録した、「みんなの家」ともに過ごす日々の暮らしの写真展です。「みんなの家」とは熊本地震後に仮設住宅団地に整備された、人々が集い語らう集会施設のこと。会場には「みんなの家」をモチーフにした、熊本県産の杉と畳で作られた5つの家型の展示物が現れました。その屋根と



photo/BianScottPeterson

壁を埋め尽くすのは、布にプリントされた約650点の写真。14名のさまざまなしが提えた熊本地震後の日常風景を通して「被災地の声」に耳を傾けると同時に、日々紡がれていく日常について振り返る機会となったのではないのでしょうか。(Mi・I)

2017.12.2

## 「みんなの家の展覧会」 オープニングトーク

写真を通して被災地の声を国内外に届ける「くまもとアートポリス みんなの家の展覧会」のオープニングイベントとして、『ペチャクチャイベント』熊本』を開催しました。20秒ずつ変わる20枚のスライドを通して、ゲストがさまざまなエピソードを語るトークイベントです。展覧会の撮影者や熊本地震の復興支援に関わる6名が、『熊本のいま、そして』をテーマに、熊本地震による被災地の現状を伝えました。メイン司会者は、本展の総合企画に携わられた建築家のア

ストリッド・クラインさん。

登壇者は、震災直後の町の様子から震災後の日常、そして復興に向けての活動を写真で発表しました。地元の大学生を中心に発足した「チーム熊本」は、物資の配送や宿泊施設の運営、学生にできることは何か、町の人がどうしたら楽しくなるかを考える活動する様子を発表しました。また復興支援ではアートも力となっていました。展覧会の写真を監修した中村くも先生は、「写真は言葉と同じ」、「たくさんの情報量がある」、「現代に普及する写真



だが、まだまだ活用の仕方がある」と写真の持つ多くの魅力を語られました。またイベントの最後にはくもモンも登場！5枚の写真で

プレゼンテーションしました。

痛ましい震災の痕や、綺麗な花を咲かせる自然の姿、さまざまな方法で復興に取り組んでいる人々の様子がゲストの写真から伝わり、それぞれの思いが胸に響くイベントとなりました。(Y・M)【参加人数30人】

2017.12.16

こども建築塾

## こんな「みんなの家」が あったらいいな

建築家のアストリッド・クラインさんを講師に招き、熊本地震からの復興について子どもたちと考え

るワーク

ショップを開催しました。災害公営住宅の敷地にどんな「みんなの家」があったらいいか、実際の模型を作りながら考えました。参加した子どもたちには事前に設計図を描いてきてもらいました。県内の大学生などがサポートしながら模型作りを進めましたが、粘土やプラバン、ビーズなどの様々な素材を手にとってみると、子どもたちのイメージが変化したり、新たな発想が湧き出てくる様子が見受けられました。約3時間かけて模型を完成させた後は、ホームギャラリーで発表会です。「みんなと仲良くできるように、部屋のしきりを外した」「屋根をガラスにして星を見られるようにした」など、自作の「みんなの家」の良さや特徴、工夫した点をどの子ども一生懸命に発表してくれました。

クラインさんは「夢が膨らんで素晴らしい！」と子どもたちの自由な発想を大絶賛。ホームギャラリーは発表会をご覧になった方からのたくさんの拍手に包まれました。(Mi・I)



【参加人数19人】



## 詩の朗読会

第165回「地震」【参加人数7人】

第166回「未来」【参加人数7人】

第167回「熊本城」又は「自由題」【参加人数11人】



当館ボランティアによる子ども向け読みきかせ

## CAMK読みがたり

第97回「ハロウィン」【参加人数22人】

第98回「みのりの秋」【参加人数15人】

第99回「クリスマス」【参加人数16人】



親子向けの各種ワークショップ

## 街なか子育てひろば

9月21日 WAIWAIらんど「わくわくリトミック」

10月19日 今田淳子「親子で楽しむアート」

11月24日 ぶらんこ「親子ふれあい遊び」

12月21日 萩野厚子「フラワーアレンジメント」



美術館や学校でさまざまな体験イベントを実施

## アートバス・アウトリーチ

## ○アートバス

10月20日 川口小学校1・2年生

「探検ツアーと誉のくまもと展鑑賞」

12月18日 田迎南小学校ひまわり学級

「展覧会鑑賞とブラックライトワークショップ」

12月22日 吉松小学校3年生

「展覧会鑑賞とダリの変身メガネワークショップ」

## ○アートプログラム

11月2日 麻生田小学校5年生

岡山直之「レインボーマン・ワークショップ」

11月3日 熊本県立劇場

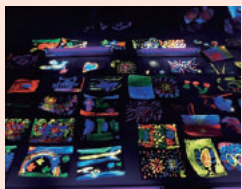
コダヨーコ「壁画ワークショップ」

11月24日 川口小学校3・6年生

今田淳子「私の、ほくの『愛してる!』をつくろう」

1月16日 田迎南小学校4年生

岡山直之「レインボーマン・ワークショップ」



ブラックライトワークショップ

今田淳子  
「私の、ほくの『愛してる!』をつくろう」

## CAMK読みがたり

2018.1.20

第100回

## 「おめでとう100回」

2009年から始まったCAMK「読みがたり」が、ついに開催100回目を迎えました。100回目の今回は、読みがたりボランティアさんが勢ぞろいして1時間の拡大版でお届けしました。初めに、お馴染みの「あたまかたひざぼん」からスタート。絵本「こねてのぼして」「ママとふたりで」「パネルシアター」「こぶたぬきつねこ」、手遊び「おせんべやけた」のほか、子どもたちに人気の大型絵本や紙芝居もお届けしました。中でも今回たいへん盛り上がりがあったのは、手袋人形とお手玉を使った遊び。手遊び「カエルのうた」では、カエル、フタ、ヒヨコ、カラス、ウサギの5匹の手袋人形で分かれて輪唱♪「あんたがたどこさ」では、歌に合わせてお手玉を隣の人に回していく遊



びをしました。リズムが早くなったり、逆回りにしたり、少しずつ難しくなりながら、途中でお手玉がどこかで止まるのも面白く、たくさんの笑顔が見られました。会の最後は、遊びに来てくれた皆さんと「さよならあんころもち」でお別れました。

【参加人数38人】



## ミュージック・ウェーブ

2017.10.14

Street Art-Plex Kumamoto

## エクストラヴァガンザ2017

Street Art-Plex Kumamotoの一年間の集大成である「エクストラヴァガンザ2017」が開催され、中心市街地8箇所さまざまなジャンルのパフォーマンスが行われました。美術館では2組が出演。日本フィルハーモニーの皆さんによる弦楽四重奏では、熊本の民謡「五木の子守唄」や「おてもやん」の他、「ひばり」「カノン」など親しみのある曲目を演奏されました。「ラデツキ行進曲」では、音楽と観客のみなさんの手拍子とが合わさって、会場が一体感に包まれました。また、原田伸雄さんと黒岩俊哉さんによる『光と闇の音』では、映像と身体とが一体となった圧倒的なパフォーマンスに、会場は静謐で不思議な空間へと様変わりしました。(K・M) 【参加人数50人】



特撮熊本城展は、全国誌や国際ニュースでも取り上げていただきました！熊本の心意気が多くの方に届いていれうれいします。



## 編集後記

「天守再現プロジェクト展」は私の担当企画でした。本展では来場者の皆さんは自由に写真撮影を楽しむことができ、「会いに行けるアイドル」ならぬ「撮りに行ける特撮」となっていました。「インスタ映え」という言葉が2017年の流行語大賞となりましたが、SNSの時代ならではの特撮の楽しみ方というものもあるのではないかと考えました。Twitter などでは来場者の方が撮った写真が数多くアップされて盛り上がりを見せていますので、よければ「#特撮熊本城」で検索してのぞいてみてください。

編集長 佐々木玄太郎

みなさまお待たせいたしました！当館の来年度の展覧会スケジュールが決定しました。こちらは、館内配布のリーフレットや、HP などでご紹介しています。来年度は「映像演劇」、「写真劇場」、「魔都上海」、「現代陶芸」など、美術館であることを忘れてしまうような新しいタイプの展覧会や刺激的で新鮮な感覚が待っています…。また本号より、近々当館で行われる展覧会やイベントの情報の掲載を始めました。こちらどうぞお見逃しなく！

担当 大田黒翔代

〔執筆者一覧〕\*原稿の文末にイニシャル表記  
富澤治子(H・T) [熊本市現代美術館主査・学芸員]  
坂本顕子(A・S) [熊本市現代美術館主査・学芸員]  
池澤茉莉(M・I) [熊本市現代美術館学芸員]  
岩崎美千子(Mi・I) [熊本市現代美術館学芸員]  
佐々木玄太郎(G・S) [熊本市現代美術館学芸員]  
大田黒翔代(K・O) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]  
三浦和紗(K・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]  
手嶋彩香(A・T) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]  
丸吉ゆかり(Y・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

ART KISS LETTER アート・キッスレター  
vol.84 初春号(2018年3月) 【無料】

発行人: 桜井武

編集: 佐々木玄太郎 大田黒翔代

デザイン: 石井克昌 (MOTOSHIKI)

印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館

http://www.camk.or.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

電話 096-278-7500 FAX 096-359-7892

【次号は春号(5月発行予定)】

2017.10.7

## 上通アートプロジェクト 2017



10月7、8日の二日間、上通アーケード内で上通商業会と共催で『上通アートプロジェクト』6  
瀧下和之×上通商店街「鬼たちと！熊本城の石垣復興を応援しよう！』を開催しました。  
「誉のくまもと展」に出品された瀧下和之さんの『桃太郎図番外 鬼ヶ島で築城祭』の複製をベースにしたパネルの石垣部分に熊本城応援メッセージを貼っていました。8日には瀧下和之さんによるサイン会が行われ、目の前でさらさらと描かれていく鬼に、皆さん興味津々のご様子でした。  
【参加人数200人】



## 月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・17時より  
上映リスト(9/19~1/20) 無料

9月25日『Dear Fukushima チェルノブイリからの手紙』2012年 ロシア・ウクライナ映画 75分

10月2日『遥かなるクルディスタン』1999年 トルコ・ドイツ・オランダ映画 109分

10月9日『戦争のない20日間』1976年 旧ソ連映画 97分

10月16日『カミハテ商店』2012年 日本映画 104分

\*日本語字幕付き(協力:字幕サークルおむすび)

10月23日『あしたのバスタはアルデンテ』2010年 イタリア映画 113分

10月30日『ガスパール 君と過ごした季節』1990年 フランス映画 90分

### 【特集】笠智衆主演ドラマ

11月6日『ながらえ』1982年 テレビドラマ 65分

11月13日『冬構え』1985年 テレビドラマ 100分

11月20日『今朝の秋』1987年 テレビドラマ 90分

11月27日『ハーヴェイ・ミルク』1984年 アメリカ映画 87分

12月4日『南部の人』1945年 アメリカ映画 91分

12月11日『ねこにみかん』2014 日本映画 106分

\*日本語字幕付き(協力:字幕サークルおむすび)

12月18日『踊らん哉』1937年 アメリカ映画 109分

12月25日『ジンジャーとフレッド』1986年 イタリア・フランス・西ドイツ映画 128分

### 【特集】世界のSF／VFX!!

2018年1月8日『メトロポリス』1927年 ドイツ映画 94分

2018年1月15日『フランケンシュタイン』1931年 アメリカ映画 69分

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介しす

## Visitor's letter

### 開館15周年記念 誉のくまもと展

■押絵が凄い。こういった作品を見られるのが現代美術館の素晴らしいところ。(市内40代男性)  
■馬人形が特に印象的で、修復前の姿との違いには驚きました。(市内30代女性)  
■作品はもちろんですが、みなさまが選んだ言葉でできあがった解説がとても胸にしました。寺田さん、石川さんのところから、石内さんの不知火の解説で、涙があふれました。全ての言葉に熊本への愛を感じました。(市外女性)

### 熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト展

■双眼鏡が欲しい！細かいところにたくさんネタが仕込まれていて、見ただけで妄想が膨らみます。天守の屋根の反りが素晴らしい。工事中の熊本城を見ると、心がくじけそうになるけれど、今回の展覧会で復興に希望が持てました。(市内40代女性)  
■涙が出ました。地震が起きてしまい、こんなことになるとは思ってなかった熊本城。でも、復活することが、また元気になる希望になると思います。この製作に関わった方達に感謝したいと思います。(市内30代女性)



## CAMK Exhibition Schedule 今後の展覧会スケジュール

G III vol.121

## 熊本地震復興支援特別企画 丸沼芸術の森所蔵

## アンドリュー・ワイエス水彩画・素描展

会期：2018年3月24日(土) - 5月6日(日)

会場：ギャラリーⅢ・井手宣通記念ギャラリー【入場無料】

20世紀アメリカの具象絵画の巨匠アンドリュー・ワイエスの水彩画・素描展を開催します。熊本地震から2年目を迎えようとするこの節目に、「丸沼芸術の森」代表の須崎勝茂氏から文化的復興支援へのご厚意をいただき、本展が開催される運びとなりました。《「クリスティーナの世界」習作》を含む「オルソン・ハウス・シリーズ」より40点を展示します。

## 丸沼芸術の森代表 須崎勝茂による特別トーク

3月24日(土) 14:00- ホームギャラリー 入場無料

## 丸沼芸術の森 ワイエス担当学芸員によるギャラリー・トーク

3月24日(土) 15:15- 井手宣通記念ギャラリー内 入場無料

## 渚・臉・カーテン チェルフィッチュの〈映像演劇〉

会期：2018年4月28日(土) - 6月17日(日)

会場：ギャラリーⅠ・Ⅱ

作・演出：岡田利規 映像：山田晋平 会場構成：長坂常(スキーム建築計画) 出演：青柳いづみ、安藤真理、太田信吾、大村わたる、川崎麻里子、吉田庸、塚原悠也(contact Gonzo)

演劇作家・岡田利規(チェルフィッチュ主宰)が境界のありようをテーマにつくる6本の〈映像演劇〉によって構成される演劇公演/展覧会。〈映像演劇〉とは、投影された映像と観る者の想像力が結びついたときの作用によって、展示空間を上演空間へと変容させる、新たな形式の演劇です。今回の新作では、ふたつの異なるものや領域、タイプのあいだにある境界の問題を扱います。



『The Fiction Over the Curtains』  
2018 プロダクションショット 撮影：加藤南

## 【オープニングトーク】チェルフィッチュの〈映像演劇〉

本企画に関わる3名のトークを行います。

講師：岡田利規(演劇作家)、山田晋平(舞台映像デザイナー)、  
長坂常(建築家)

日時：4月28日(土) 14:00-15:30 場所：ホームギャラリー

## ／ オ ス ス メ 情 報 ／

## 【完全保存版】ミニチュア熊本城製作メイキング DVD

「熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト」のミニチュア製作の軌跡を追ったメイキング記録 DVD。特撮のプロフェッショナルの技と、関係者の想い、各種エピソードを詰め込んだ完全保存版です！

[収録映像]

■メイキング・オブ・ミニチュア熊本城〔完全版〕：約23分

■〈特典映像1〉三池敏夫氏による展示会場解説：約14分

■〈特典映像2〉マープリングファインアーツの製作工程：14分

販売価格：1,000円(熊本市現代美術館および美術館HPで販売中)



「ユニバーサル・ミュージアム」展開催  
障がいのある人やない人、高齢者や子どもを含む様々な人が楽しめるミュージアムづくりを目指す「ユニバーサル・ミュージアム」の考え方を元にした展示が井手宣通記念ギャラリーで開催されました。来場者は手袋をつけて会場内の作品に触れるほか、会期中には、アイマスクをつけてより多くの作品にふれる、さわる、ギャラリーツアーも開催されました。(A・S)



G III vol.120  
2018.1.13-3.11  
「アートホーリーメン展 2005-2018」  
開幕&アーティストトーク  
熊本在住の、引きこもり系現代アーティスト、アートホーリーメンの個展をギャラリーⅢで開催しました。マンガのコマを拡大したドローイングによる代表作のインスタレーション《HORYMANと鯨》など約230点を展示。初日には、ホーリーメン本人によるアーティストトークが行われ、マンガ家を目指して挫折し、アーティスト活動を始めた経緯



や、大友克洋、葛飾北斎など影響を受けた様々な先人たちの作品のこと、独自の描画スタイルについてなど、様々な話題について語ってもらいました。スピード感とユーモアにあふれた楽しいトークになりました。(A・S)  
【トーク参加人数12人】

